

「金融リテラシー」の重要性

蔵本 雅史

(日本銀行 佐賀事務所長)



平成30年6月に佐賀に赴任して早1年半が過ぎました。約30年前に北九州で2年間勤務しましたが、佐賀の地は初めてでした。聞くもの、見るもの全てが興味深く、時間を見つけては県内をドライブし、豊かな歴史や文化、自然を楽しんでいます。

当初の目標であった県内の国道走破は達成し、現在は県内の全酒蔵訪問達成に向けて頑張っているところです。また、佐賀県は、日本銀行本店の建物(本館)を設計した辰野博士やわが国初の通貨制度を定めた大隈侯等の出身地であり、日本銀行との縁の深さも改めて感じています。特に、昨年は辰野博士の没後100年であったこともあり、弊行の広報誌で出身地の唐津市を特集させていただきました。

私ども日本銀行佐賀事務所は、昭和21年、佐賀中央銀行佐賀支店(旧佐賀銀行呉服町支店)に開設され、来年で75周年となります。その後幾度かの移転の後、現在は佐賀銀行本店3階にあります。主な業務としては、県内で使用されるお札(日本銀行券)を円滑に供給することのほか、「佐賀県金融経済の概況」の公表や各種の講演・講話等を通じて佐賀県の金融経済や日本銀行の活動に関する情報発信を行っています。また、佐賀県金融広報委員会(事務局:佐賀県)とともに、学校での金融教育やお金に関する講演会といった金融広報活動にも取り組んでいます。

さて、この金融広報に関してですが、私自身、赴任前にもこの仕事に携わっていたこともあり、最近気になっていることがあります。それは佐賀県の「金融リテラシー」が余り高くないことです。「金融リテラシー」とは、“お金に関する知識・判

断力”のことを言います。私たちの毎日の生活にお金は欠かせませんが、そのお金をより効率的・効果的に活用すれば、その分豊かな生活を送ることができます。

そのために必要な知識・判断力が金融リテラシーなのです。しかしながら、昨年6月に金融広報中央委員会(事務局:日本銀行)が公表した第2回「金融リテラシー調査」をみますと、佐賀県の水準は全国で46位と揮いませんでした。水準が高ければよいという訳ではありませんが、調査結果を分析しますと、リテラシーが低いほど、「金融トラブル経験者」の割合が高い傾向があり、佐賀県も全国で2番目の高さとなっています。

また、フィンテックやキャッシュレス決済、老後の資産形成に向けた新しい税優遇制度(NISA、iDeCo)など、金融を巡る環境が近年大きく変化する中で、私たちが生活していく上で「金融リテラシー」の重要性は一段と高まっていることも確かです。当地は生活環境に恵まれており、お金のことなど心配しなくても豊かな生活を過ごせるとおっしゃる方もいらっしゃいます。

確かに今現在はその通りだと思いますが、例えば、将来を展望しますと、少子高齢化が進む中で、年金等の老後の生活費に対する不安が高まっているのも事実です。私どもは、「金融リテラシー」の向上を通じて、こうした県民の皆様の不安を少しでも解消できればと考えています。

最後に、これまで当事務所が当地で確りと活動できてこれたのは、佐賀県の金融経済界の皆様のご協力のおかげであり、改めて感謝申し上げます。今後とも佐賀県の皆様のお役に立つよう努めてまいりますので、引き続き宜しくお願い致します。